

アスベスト健康被害 「メーカーは命軽視」

熊本市で交流会
患者や遺族語る

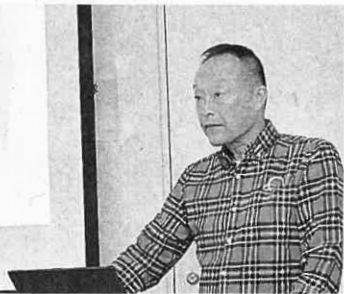
アスベスト（石綿）による健康被害を受けた患者や家族らの交流会が28日、熊本市中央区の市民会館シアーズホーム夢ホールであり、患者3人と遺族1人が体験を語った。

民間団体「中皮腫サポートキャラバン隊」と「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会九州支部」が、孤立しがちな患者や家族をつなげようと開いた。熊本

開催は2019年以来2回目で、約30人が集まった。

兵庫県西宮市の尾上一郎さん(67)は、内装材を扱う仕事で石綿を吸い込み、2017年に悪性胸膜中皮腫を発症した。現在は抗がん剤の副作用に苦しんでいる。交流会では「手足がしびれて箸を使うのもままならなかった。妻や娘たちの支えに感謝している」と振り返り、「メーカーが内装材の危険性を知ったときに販売を止めていたら、被害者は増えなかった。メーカーは人命を軽視している」と憤った。

(熊川果穂)



アスベスト(石綿)被害について体験を語る尾上一郎さん

28日、熊本市中央区